

2月11日

市制施行十周年記念日

日光市の発展を祝い

今後への期待と努力を

新たにしよう

- ▼ 昭和29年2月11日、栃木県町村合併の第一号として、日光市が誕生して早や10年の歳月が流れた。当時、世界的「観光都」に飛躍する基礎を確立したと世情を賑わした日光市は、10年の間に名実共に「国際観光都」として大きくステップ、更に輝きにみちた未来への飛躍が約束されているとき、私たちは市制施行10周年記念日を迎え、日光市としての、市民全体としての発展と、それに伴う生活文化の向上を祝うと共に、今後への期待と努力を新たにしようではありませんか。

2月11日の市制記念日には、二荒山神社で市制施行十周年の記念報告祭が行なわれるほか、自治功労者の表彰が行なわれるが記念祝賀行事は4月に行なわれる予定。

今昔の市勢

そこで、市制10周年を迎えて、日光市がどのように発展したか市民全体としての発展を知るバロメーターとして、昭和29年当時と現在の市勢を比較してみる。はじめ、商店販売額の百八十四%増、市民所得の百六十一%増、財政規模の六十九%増と驚くほどの成長を示しており、いかに市民全体が発展しているか

がわかる。

その間、健全財政を図りつつ着々と理想都市の建設をすすめ、今日市制10周年を迎えたのであるが、市制10年の歩み

は書き出せばきりがないうほどあり、これらは4月に行なわれる予定の祝賀行事に合わせ、特集号としてお届けする予定です。

二十歳の門出を祝福 第16回成人式

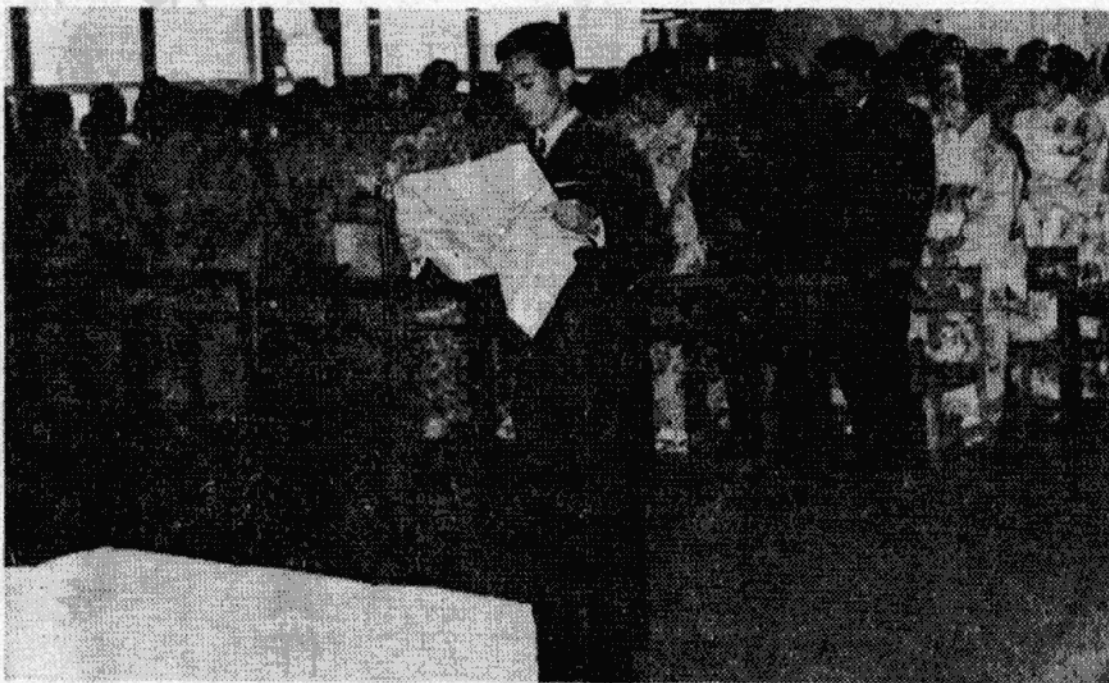
今年で16回目を迎えた成人式は例年どおり午前10時から式典だけが行なわれた。

今年の成人者は、男子二百七十八人、女子三百三十二人の計六百十人で、昨年より六十一人も多く、また式には四百五十八人が出席して、二十歳

の門出を祝った。

式典では、佐々木市長はじめ、関係者から祝いの言葉が贈られこれに対して入勝行君が宣誓、夢沼マチ子さんが謝辞、高浜清君が成人適格証を代表して受け取った。

〔写真 宣誓する入勝君〕



	29年当時	現在
人口	31,087人	32,153人
財政規模	214百万円	303百万円
市税	150百万円	258百万円
市民1人当り所得	118千円	309千円
市民1人当り市予算額	6,700円	11,300円
工場数	74	111
工場従業員数	3,601人	4,734人
工業生産高	9,565百万円	28,205百万円
商店数	183店	680店
商店従業員数	1,184人	2,783人
商店販売額	1,497百万円	4,300百万円
外来客数	2,176千人	4,470千人
ラジオ	6,648人	1,651人
テレビ	27人	5,313人
電話加入者	990人	1,817人
水道給水人口	11,630人	21,426人
市職員数	190人	335人

火事・急救車

日光地区 } 局番 119番
中宮祠地区 } なし

火災・急救の連絡は、あわてずに目標をはっきりとし、消防署で確認するまで切らずに置いてください

その他の連絡は
4-0050番へ



【訂正】1月号日光市広報の「火事・救急車の連絡は、番号を忘れた場合は火事・救急車」の記事は誤りですので訂正するとともにお詫びします。